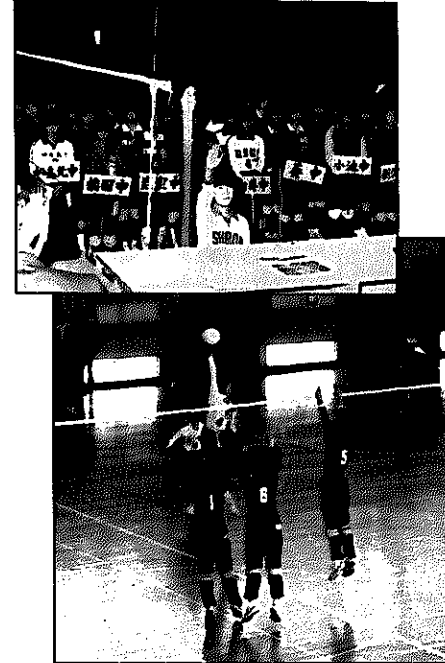


まちのわだい



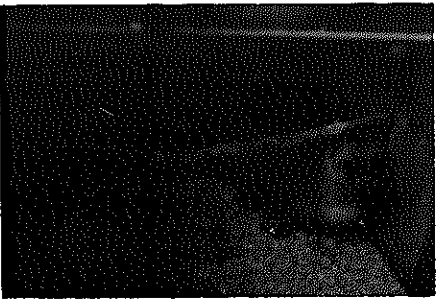
**小林小・戸頭小の児童交歓会**  
 統合を前にお互いの交流を深めようと、小林小・戸頭小の児童交歓会が一月二十日、戸頭小学校で行われました。両校の校歌を交換した後、各学年ごとに分かれ自己紹介やゲームなどで、なごやかに交流を深めていきました。両校は統合し、四月に新しく完成する小林小学校に入ることになっています。

**熱戦、中学生女子バレーボール大会**  
 一月十五日、中学生女子バレーボール選手権大会が白根高校など三会場で行われました。県内各地から二十七校の強豪が出場し、若さあふれる熱戦をくりひろげました。試合は、中之島北中が優勝。市内の各中学校も善戦したものの、準々決勝まで駒を進めることができませんでした。



**白根小学校で新春カルタ大会**  
 一月十二日から十四日まで、白根小学校で新春カルタ大会が行われました。これは、みんなで協力し、学校生活を楽しくしようと、児童会主催で毎年行っているものです。読み札は児童から標語形式で募集、それをもとに各クラスが分担して絵札を作成。この日ばかりは、みんなとても楽しそうにカルタ取りに熱中していました。

**街のど真中にいたちが…** 1月19日早朝、田村文男さん宅（能登）のねずみ取り器に、野性のいたちが捕まりました。保護動物のため、保健所で治療した後、山に放されましたが、こんな市街地にいたちが捕まるなんて…と、評判ひとしきり。



**元旦ジョギング…** 市民の体力づくりを呼びかけている白根ジョギングクラブが走り初め。中の口川堤防を中心に3.2キロを、さわやかにランニングしました。このほか新飯田、茨曾根地区でも元旦マラソンが行われました。

短歌



嬰兒の夢想笑いに頬寄せて  
 ただひたすらに健やかであれ  
 年の瀬と思いぬ今日の暖かさ  
 スキー場に住む弟をふと思ひ  
 最後まで笑顔をやさめ姉なれど  
 心の中いかにやと見るのもつらい

中村 京  
 小林キミイ  
 武田 雅子

追羽根や腰をのばして受けていし  
 手づき餅休暇とれない子に送る  
 杵音のとほつて餅のつきあがり  
 しみじみと月忌納めの経を聞き

牛腸 七郎  
 佐野 竹子  
 須戸 義夫  
 大旗 豊治

アメと鞭持つて味方にしてる孫  
 婦人層味方につけて票を読む  
 家裁出た夫婦他人の顔となる  
 歯ごたえの無い嫁と姑の強い語尾  
 試験管ペーパー博士に似て生まれ  
 逃投げた子から楷書の手紙くる  
 腹の中まだまだ明せない味方  
 鬼の面豆撒く男に逆らえず  
 かくしてる尻尾がゆかくなつてくる  
 二枚の歯芽生えた孫をきつく抱き  
 眠ってる芽に春風が心地よい  
 望郷の詩で始まる孤児日記  
 よっしゃよっしゃの声もいくらか  
 ちさくなり

岡村 清  
 竹石 甚五  
 吉川 彰  
 後藤まさの  
 中村 尚治  
 今井 七郎  
 高橋祐四雄  
 吉川 末吉  
 長井 徳市  
 大井 義雄  
 本間 吾朗  
 西条 ムラ  
 米野 光雄

俳句

親の年令追い越さんかも年重ね  
 宮仕い足袋に日ざしや初詣  
 三ヶ日過れば又も出稼ぎぬ  
 年賀状受けて知人を想い出す  
 天高く柿落ちないで年を越し  
 マラソンの吐く息白く追い超せり  
 年玉に差別をつけて吾子にやり  
 来る年も来る年も目出度けり

石田 豊一  
 針貝 静男  
 中山 義英  
 桑原 平一  
 石田 豊実  
 坪川桐太郎  
 真保 清三  
 佐藤勇一郎

元旦ジョギング… 市民の体力づくりを呼びかけている白根ジョギングクラブが走り初め。中の口川堤防を中心に3.2キロを、さわやかにランニングしました。このほか新飯田、茨曾根地区でも元旦マラソンが行われました。



産毛で筆の製作は最高の記念品

筆の穂は、狸・兎・鹿などの毛が用いられるとのことです。今は故人となられたK氏は、ねずみの鼻ひげをたくさん集めて、筆をこしらえてもらったと話されました。深く気にも留めず、聞き流しにしたところが悔やまれます。

写経、写仏に関心を持つ昨今、筆への関心が高まって来ましたが、今は聞く術を持たない身となりました。

子の親となったもの、昔はへその尾を大切に保存していたものですが、今は病院のお世話になるものが多く、それもかなわないかも知れません。初めての産毛を剃る

乳児の産毛で筆を  
 東樹友次さん（住吉町・六十九歳）  
 時、乳児の毛髪で毛筆をこしらえるのは、子供の最高の記念品になることを、六十有余年を生き、ようやく知ることができました。晩学と浅智にいまさらながら赤面をしています。

乳児の毛髪を筆屋に依頼して、筆の軸に生年月日、氏名を刻んで保管するのは、唯一最高の記念品です。そればかりでなく、本人の終生の慈悲の象徴として、教育の原点に回帰する実行手段としても、心ある人々に産毛筆の製作をお勧めします。書き心地も、大変によいとのこと。

母親が家庭の鏡であってほしい

野内熊太郎さん（砂押・六十歳）  
 若い人の事にタッチしないと、年寄り時代遅れだなど耳にしませぬ。

つけ教育が先決」という記事が出ていたが、特に母親は家庭の鏡であってほしいものです。幼少の時から子供は、話も聞いていて行動も見えています。

最近、小さい親切、小さいボランティア活動が行われていることですが、非行防止にも役立つ。青少年の根本として感心しました。「典子は今」の映画を見られた人も多いと思いますが、障害を負った青少年も多くいます。それにもめげず、一生懸命にがんばっています。五体そろった者が非行に走ることは、残念なことではないでしょうか。

文化のまち、うるおいのあるまちが掛け声だけの題目にならぬよう、努力したいものです。

**路上駐車はやめて…除雪車が通れません**

□冬期間の路上駐車はやめましょう。除雪車が通れません。  
 □除雪した道路に、雪を捨てないでください。  
 □除雪作業中の機械には、近づかないようにしましょう。



世代の相違は確かにあります。戦前戦後をかけて物資不足の時代から、一躍先進国となり、あらゆる物が豊富になり、青少年の欲しい新製品がたくさん販売されています。高くても親も困難で買ってやれない場合もあります。それも非行の原因の一つになっていることではないでしょうか。

非行防止が叫ばれていますが、生まれながらにして非行青少年は一人もいないと思います。「人間は造り松」と、昔の人はいいました。現代は子供の数も少なく、自然に子供中心主義になり、過保護傾向になりがちです。このようなことも原因の一つになるかと思えます。広報しろね十一月一日号の市民談話室で「非行防止には親のし